

中華人民共和国北京市東城区訪問報告書

(令和7年7月21日～23日)



令和7年7月

目黒区議会

目 次

1	訪問目的	・・・ 1 ページ
2	訪問団の構成	・・・ 1 ページ
3	訪問日程	
	(1) 訪問日	・・・ 2 ページ
	(2) 行 程	・・・ 2 ページ
4	訪問概要	
	(1) 第 1 日目	
	ア 前門三里河公園視察	・・・ 3 ページ
	イ 三区間交流事業歓迎夕食会	・・・ 4 ページ
	(2) 第 2 日目	
	ア 中日韓三区間青少年バドミントン大会開会式・試合観戦	・・・ 5 ページ
	イ 東城区人民代表大会表敬訪問・意見交換	・・・ 7 ページ
	(3) 第 3 日目	
	ア 北京市防災訓練センター視察	・・・ 10 ページ
5	訪問のまとめ	・・・ 11 ページ

1 訪問目的

目黒区と中華人民共和国北京市東城区（以下「東城区」という。なお、協定締結時は崇文区）は、両都市の発展、交流協力関係の強化を図るため、平成3年10月、友好都市協定を締結した。

この協定では、①両区が相互理解と友好関係を増進させるために、お互いの意向を尊重しながら積極的に友好交流を実施し、協力関係を発展させること、②両区が文化・芸術、教育、スポーツ、経済、青少年、議会及び行政などの多様な分野で様々な形式の交流と協力を行うことについて合意された。

その後、目黒区と大韓民国ソウル特別区中浪区（以下「中浪区」という。）、東城区の間で、平成29年から中学生によるスポーツ等の交流事業を開始し、平成29年には東城区にて第1回が開催され、平成30年は目黒区、令和元年には中浪区において同事業が実施された。以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインでの交流等を行ってきたが、令和6年は5年ぶりに中浪区でのバドミントンを種目とする青少年交流事業が行われた。

本年は東城区にて、バドミントンを種目とする三区間交流事業の実施が決定され、この機を捉えて、協定内容の1つである、議会間や議員間の交流が計画された。東城区人民代表大会常務委員会主任肖志刚氏より、目黒区議会議長に対し、中日韓三区間フォーラム、防災・減災をテーマにした談話会、東城区文化施設の視察と交流のための訪問を依頼する招聘状が発出され、目黒区議会の議員派遣議決を経て、東城区を訪問することとなった。

本記録はこの訪問結果をとりまとめたものである。

2 訪問団の構成

- (1) 区議会代表団 5名
- (2) 区議会事務局随員 2名
- (3) 訪問団一覧

No.	職 名	氏 名
1	目黒区議会 議長	鈴木まさし
2	目黒区議会 議会運営委員会委員長	おのせ康裕
3	自由民主党目黒区議団・区民の会幹事長	西村 ちほ
4	めぐろの未来をつくる会（無所属・国民・維新）幹事長	吉野 正人
5	立憲民主・目黒フォーラム幹事長	金井ひろし
6	目黒区議会 事務局長	松下 健治
7	目黒区議会 事務局庶務係長	神邊 敏彰

3 訪問日程

(1) 訪問日 令和7年7月21日(月・祝)～23日(水)

(2) 行程 以下のとおり。

日付	時間	内容
7 / 21 (月・祝)	06:30	羽田空港集合
	08:50	羽田空港発(日本航空021便)
	12:00	北京首都国際空港着
	13:00	昼食・東城区へ移動
	15:30～16:30	前門三里河公園視察
	16:30	宿泊ホテルへ移動
	17:00	宿泊ホテル着
	17:30	三区間交流事業歓迎夕食会会場へ移動
	18:30～20:00	三区間交流事業歓迎夕食会出席
	20:30	宿泊ホテルへ移動
	21:30	宿泊ホテル着
7 / 22 (火)	08:30	宿泊ホテル発
	09:20	龍潭湖体育館(バドミントン試合会場)着
	09:30～11:30	三区間交流事業開会式、試合視察
	11:30～12:00	龍潭公園内(平成17年に目黒区が植樹した桜の視察)
	12:00	昼食、東城区人民代表大会へ移動
	14:30～16:30	東城区人民代表大会表敬訪問・意見交換
	19:00	夕食、宿泊ホテルへ移動
	21:30	宿泊ホテル着
7 / 23 (水)	09:00	宿泊ホテル発
	10:00～12:00	北京市防災訓練センター視察
	12:00	昼食、北京首都国際空港へ移動
	14:00	北京首都国際空港着
	16:20	北京首都国際空港発(日本航空022便)
	20:50	羽田空港着
	22:00	羽田空港解散

4 訪問概要

(1) 第1日目

ア 前門三里河公園視察

- ① 日 時：令和7年7月21日（月・祝）15時30分から16時30分まで
- ② 場 所：前門三里河公園
- ③ 対応者：東城区政府外事弁公室、天街集團関係者
- ④ 視察の内容：



前門三里河の歴史は明（1436－1449年）まで遡る。明の『河渠志』によると、「城南の三里河にはもともと水源がなく、正統年間に城壕を修築した際、雨水の氾濫を防ぐため、正陽橋東南の低地に排水口を開いて水を流したことから、三里河の名が始まった」とのこと。

1437年、南城の排水路として三里河水系が形成され、住民は川沿いに居住し、劇場や会館が集まり、江南の水郷のような風情を醸し出し、北京旧市街で最も歴史文化が豊かな地域の一つとなった。

時代の変遷とともに、三里河の河道は次第に歴史の舞台から消え、かつての賑わいも失われた。

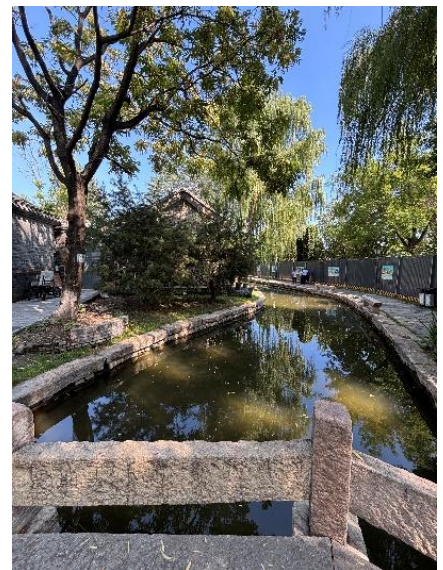
近年、古い街の記憶を留め、元々の街並みを復元するため、東城区は前門三里河の全面的な改修・整備プロジェクトを開始した。歴史的な河道の位置と流路に基づいて復元され、胡同（フートン・

北京特有の歴史ある路地や横丁）の街区

や四合院の建築と自然環境が見事に融合している。改修工事では、元からあった古木が保存され、以前の庭園にあった木材や古い石材も、河道施設の建設に再利用された。これにより、河道と周辺環境が改善されただけでなく、百年以上にわたる都市の痕跡が記録され、水路が街路を縫いながら前門を巡る歴史的な景観が再現されている。

今回は『雨水洪水調整システム』により、生態環境の構築により、「水が水路を彩り、庭園と家が調和する」街並みが再現された。

近年、北京市においても集中豪雨対策が課題となっているが、再整備された水路の地下には、豪雨対策として、雨水貯留槽が設置されている。普段は観光地として、風光明媚で、路地裏文化が残る素敵な場所である。この路地裏には古民家を改修した図書館があった。文化・芸術を大切にする慣習であることから、この胡同の中に



は劇場もあり、訪れた時には、ちょうどワークショップ中であった。

右の写真は、壁が倒れないように補強されている。これも風景に溶け込み自然な形で補強され、町全体が景観を大事にしている。豪雨災害時には貯留槽を活かして人々の生活を守るための施設になっている。本区においても、普段は人々が集い賑わいを創出する場所でありながら、有事において、区民を守る対策が取れる施設という考えも取り入れていけたらと認識した視察であった。



イ 三区間交流事業歓迎夕食会

① 日 時：令和7年7月21日（月・祝） 18時30分から20時まで

② 場 所：北京全聚德（王府井）

③ 主な参列者：

■ 東城区（7人）

○ 政府（6人）

陳猷森 東城区区長

王佑明 東城区副区長 ほか

○ 人民代表大会（1人）

王森 東城区人大副主任

■ 目黒区（15人）

○ 区（8人）

青木英二 目黒区長 ほか

○ 議会（7人）

鈴木まさし 目黒区議会議長

おのせ康裕 目黒区議会議会運営委員会委員長

西村 ちほ 自由民主党目黒区議団・区民の会幹事長

吉野 正人 めぐろの未来をつくる会（無所属・国民・維新）幹事長

金井ひろし 立憲民主・目黒フォーラム幹事長ほか

■ 中浪区（14人）

○ 政府（7人）

郑相泽 中浪区副区長ほか

○ 体育協会（7人）

徐容基 中浪区体育協会会長

崔方壬 中浪区体育協会副会長ほか

■ 東城区、目黒区、中浪区の選手及び関係者等（71名）



④ 夕食会の内容

午後6時30分、王府井に参列者が一堂に会し、王佑明 東城区副区長の司会により歓迎夕食会が始まった。陳猷森 東城区長の致歓迎辞をはじめ、青木英二 目黒区長、鈴木まさし 目黒区議会議員、鄭相澤 中浪区副区長の挨拶があった。鈴木まさし 目黒区議会議員からは、「三区間交流事業を通じてそれぞれの都市の未来を担う中学生同士が、このような貴重な機会を通じて交流を深めることができるのは、大変に意義深い。



目黒区議会として、3都市の交流が深まり長く続けられるよう、こうした草の根の交流を引き続き支援して参りたい。」との挨拶があった。三区の関係者が夕食を共にしながら終始和やかな雰囲気ですれど談が進められ、記念撮影を行って夕食会は盛会のうちに終了した。

(2) 第2日目

ア 中日韓三区間青少年バドミントン大会開会式・試合視察

① 日 時：令和7年7月22日（火）9時30分から11時30分まで

② 場 所：龍潭湖公園内体育館

③ 視察の内容：

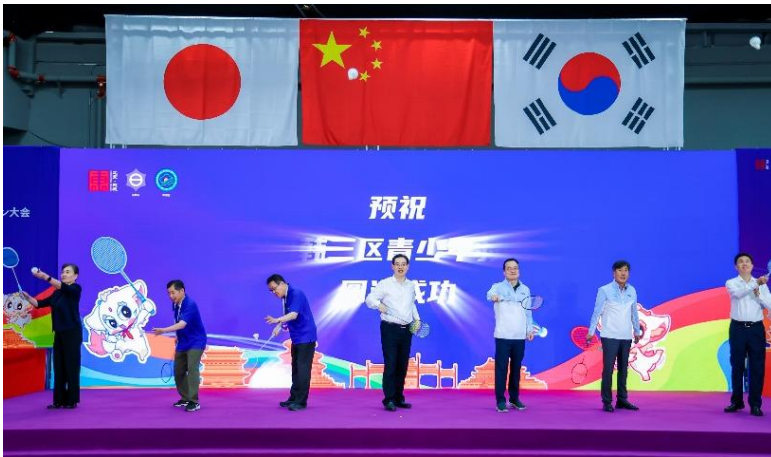
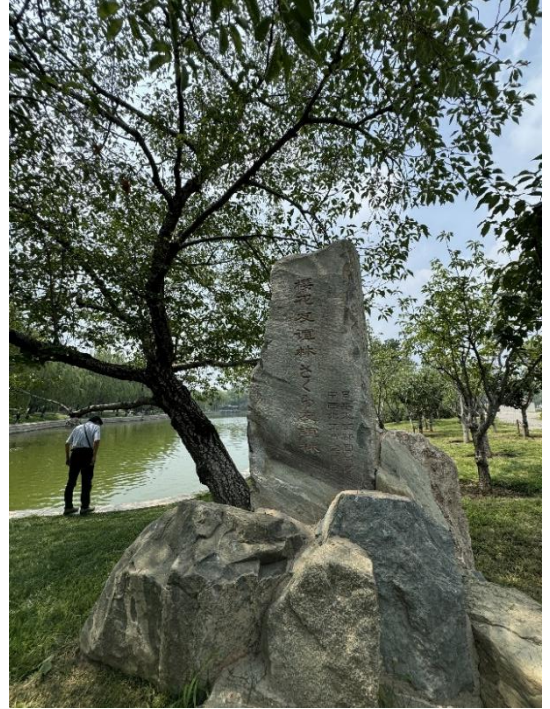


昨年実施された中浪区でのバドミントン大会同様、東城区の交流試合会場である龍潭湖公園周辺は、中・日・韓国語で表記された大会開催歓迎の横断幕やバナー広告が随所に見られ、東城区側の歓迎の力の入れようを垣間見た。選手団をはじめとした大型バス駐車場からメインの体育館へのアクセスは、目の前であった。





龍潭湖公園は、民間による公園運営が実施され、体育館入り口には、洒落たカフェが併設されていた。龍潭湖公園は、大きな湖の周りに遊園地や植物園などが広がり、広い敷地内は、遊覧バスで巡ることができる。この遊覧バスに乗り、メイン会場である体育館と反対側に行ったところにある、崇文区時代の目黒区との友好都市訪問の際に植えられた桜の木を視察した。



このようにスポーツ交流の中にその国の文化や芸術が披露されることも、三区間交流の魅力の一つである。

その後、中国、日本、韓国の行政関係者の紹介、挨拶が行われ、三区の中学生たちが混合になったチームが紹介された。

試合が始まる前には、中国五輪代表選手によるデモンストレーション演技が実施された。



体育館では右側に大きな試合会場となるスペース、左側には開会式の会場となるステージが用意されていた。

三区間交流の大きなテーマに青少年の交流があるが、昨年の中浪区同様、司会は地域の青少年が担当した。また、地域の青少年が操るアクロバティックな獅子舞が披露され、刀剣演技と書道が融合された演舞も披露された。



セレモニーが終わると、早速、右側に設置された2つのコートにて交流試合が開始された。前日からのチーム分けと歓迎夕食会で、すっかり個人個人の特性を理解しているかのように、お互いに声を掛け合って、試合に集中していた。

言葉は通じなくとも、同じスポーツを通じて同じチームとなり、すぐに試合が行えることは、短期間の国際交流行事にとって大きなメリットと言える。

試合を通じて、練習を通じて、同じ世代の子どもたちが、翻訳機という新しいツールを使いながら数日間を過ごすこと、この時間が、草の根交流の原点として、彼らの心に灯ることを大いに期待したい。

イ 東城区人民代表大会表敬訪問・意見交換

① 日 時：令和7年7月22日（火）14時30分から16時30分まで

② 場 所：東城区人民代表大会

③ 参列者：

■ 東城区人民政府・人民代表大会（7人）

肖志刚	東城区人民代表大会常務委員会	主任
王 森	東城区人民代表大会常務委員会	副主任
盧曉東	東城区人民代表大会常務委員会	事務局長
羅海珊	東城区人民政府外事弁公室	主任
孟 媛	東城区政府緊急管理局	副局長
石 祥	東城区消防救急局	二級督導員
王慧彦	東城区政府緊急管理局外部招聘専門家	

■ 目黒区議会（7人）

鈴木議長ほか区議会議員4名、事務局2名

④ 視察の内容：

東城区訪問2日目の午後は、北京市東城区人民代表大会を訪問し、肖志刚東城区人民代表大会常務委員会主任をはじめとする7名のご出席者より温かい歓迎を受けた。

冒頭、肖志剛主任より東城区訪問に対する歓迎のご挨拶と中国側出席者の紹介があり、日本側からは鈴木まさし目黒区議会議員が招聘への謝意を述べた後、各参加者が自己紹介を行い、早速、防災対策について意見交換を行うこととなった。意見交換には、日中それぞれ1名の通訳が付き、適宜通訳を交えながら進行的した。

孟媛東城区政府緊急管理局副局長からは、地震対策について説明があった。北京市の地下には15の活断層があり、そのうちの5つの活断層について100年以内に大規模な地震が発生する可能性が高いと予測されている。活断層等大規模調査・報告、避難通路、震災後の避難所、通信、情報収集と会見、その他様々な時点での防災計画について、日本同様に計画策定されている説明があった。一方で、電気や水の供給は「1日以内に復旧可能」と認識されており、備蓄や対応策に対する危機意識に両区で温度差があると感じられた。この背景には、国からの支援スピードや規模の見込みに違いがあり、それが各区における対策の優先度にも影響していると考えられる。

続いて、石祥東城区消防救急局二級指導員からは、60人単位で構成される救急隊の体制や訓練等について説明があった。日常では図上訓練や実動確認を行っており、加えてSNSを活用して定期的に住民への啓発活動も実施されている。日本では9月1日を「防災の日」とし、特に9月の防災月間に集中して啓発活動が行われているが、近年の災害頻発を踏まえるならば、日常的・継続的な啓発が重要であろう。東城区では、実地訓練とデジタル技術の双方を重視し、効率的な人員配置と指揮系統の確立にも力を入れているようであった。

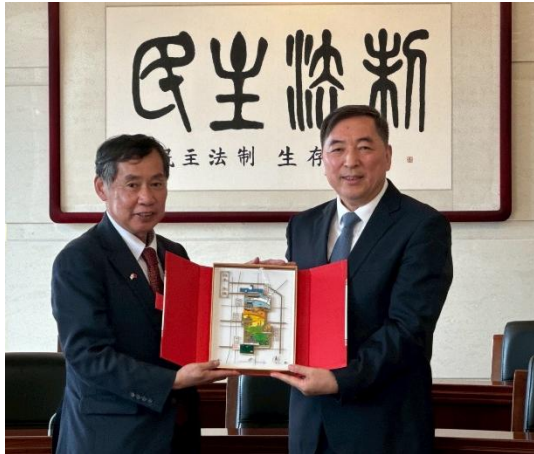


鈴木まさし議長からは、本区における災害対策本部の立ち上げ、停電時の電力確保、断水時のトイレ対策、在宅避難のための準備などについて説明した。また、対口支援（被災地と、復旧・復興を支援する地域とを一对一のペアにして行う支援）が行われた2008年の四川大地震を参考に、日本でも同様の取り組みが始まっていることを伝えた。ただし、四川大地震で実施された対口支援は、資金面に加え、農村支援、住宅建設、学校・病院・福祉施設の整備など、インフラを含む包括的かつ長期的な支援であり、



災害対応職員の派遣を中心とした日本の対口支援とは大きな違いがある。今後、日本でも多様な支援内容を含む対口支援のあり方について再検討が求められる。

意見交換の中では、王慧彦東城区政府緊急管理局外部招聘専門家より、「阪神・淡路大震災に関する資料の多くが中国語に翻訳されており、防災や復興の参考にしてきた。日本の経験



から多くを学ぶことができ、感謝している」との発言があった。震災の痛みを越えてきた両国であるが、互いに学び合い、労わり合いながら、その経験と絆を次世代へ残していきたいという思いが伝わってきた。

結びに、肖志刚主任から以下の2点の提案があった。

1. 両区の友情を継続・深化させるため、常態化した相互訪問を行うこと。
2. 引き続き防災分野での交流を進め、経済・技術面での協力を図っていくこと。

来年、目黒区と東城区との交流は35周年という節目を迎える。両区がこれまで築いてきた友好関係をより一層深め、未来へと受け継いでいくことを改めて確認し、会議を終えた。

会議の後には、常務委員会室（議場）にご案内いただき、歩きながら両国の議会運営の違いや日常の活動についてなど、ざっくばらんにお話させていただいた。東城区の方々に最後のお見送りまでとても温かく迎えていただいたことに感謝し、今後の交流に際して我々も礼を尽くしてまいりたい。



(3) 第3日目

ア 北京市防災訓練センター（北京公共安全体验馆）視察

- ① 日 時：令和7年7月23日（水）10時00分から12時00分まで
- ② 場 所：北京市防災訓練センター
- ③ 対応者：防災訓練センター所長・職員、東城区政府外事弁公室
- ④ 視察の内容：



国の「第13次5カ年計画」における「公共安全体制の整備、防災・減災・救援能力の強化、防災・減災に関する広報・教育・訓練の幅広い展開」の要請に应运て2019年に開設された全人民を対象とした公安教育体验馆であり、自然灾害、事故、公衆衛生、社会保障などの分野を網羅した体験を市民に提供している。

建設費8,000万元余（16億円余）は企業スポンサー、個人寄付金、国の補助等で調達、運営は民間企業が全て行っ

おり、国等からの運営補助等はないとのことである。

利用料は親子2人飲食代込みで200元（約4,000円）であるが、学校団体利用、障害者、国の記念日は無料となっている。また、様々な体験を終了した者には、終了証、バッジを交付している。

12,000㎡を超える広さで、1日1,000人の収容が可能であり、ビッグデータ、高精度測位、バーチャルリアリティといった技術を駆使し、市民への科学教育、緊急事態のリアルな体験、科学教育効果のデジタル化などを推進し、市民の安全意識と、自助・共助能力を効果的に向上させ、「知識から始め、技能を鍛え、意識で終わる」という安全教育を目的としており、この規模の体験施設としては国内唯一の施設となっている。

館内に入ると、国内の活断層を表示するパネルがあり、北京市内にも多く存在することが確認できた。

模型用の振動台では、実際に様々な模型を揺らし、免振、耐震等の効果を実証することができ、実物の振動台（起震装置体験コーナー）では、自由度ダイナミックプラットフォーム、高解像度マルチスクリーンの大画面ディスプレイにより、マグニチュード4～8の臨場感あふれる地震災害を体験することができた。

異常気象対応体験エリアでは、実際に雨具を装着し暴風雨を体験することで、暴風雨に遭遇した際の対応策及び、自己救助方法を学ぶことができた。





自然災害や事故等のその他関連として、地下鉄脱出体験では、地下鉄運行中に火災が発生した想定で、車内に煙が充満した際の対応を学び、航空機脱出体験として、緊急着陸後の脱出シューターを体験し、乗客の秩序ある避難に対する意識とスキルを学び、交通安全体験として、バス内での緊急事態に対応するために、窓を割って脱出する方法や、バスの死角などに関する知識を学び、更に、豪雨発生時に乗用車が冠水した所に入ってしまったことを想定し、実際に雨具を着用して乗用車へ乗り込み、半分ほど水

没させたあと、水圧でドアが開かないことを確認したり、脱出方法を学ぶことができた。

災害救助体験では、高所からの救助として、実際に降下装置を使用して安全に降下する方法を学んだ。

以上のように、この施設は、防災だけではなく、様々な災害、事故発生時における対応等を学ぶ施設でもあり、視察を通して大変勉強になった。



5 訪問のまとめ

このたび、東城区人民代表大会常務委員会の肖志刚主任から目黒区議会議長に招聘状が届き、2泊3日の日程で東城区を訪問した。

今年、中華人民共和国北京市東城区との友好都市の関係は、平成23年9月の友好都市協定締結から14年、平成3年10月の旧崇文区との協定締結にさかのぼると、34年を迎えようとしている。

訪問の目的は、相互理解と友好関係を増進させ、より一層の協力関係を築いていくため、東城区を訪問し意見交換を行うとともに、併せて、目黒区・東城区・中浪区との三区間交流事業を視察することで、次年度に目黒区で開催される同事業に繋げていくことであった。

日本と中国の関係は、その時々政権により左右されることもあるが、目黒区と東城区の交流のような、いわゆる草の根交流を地道に積み重ねていくことが、ひいては良好な日中関係に寄与していくものと考えている。

今回の訪問を通じて、議員派遣の目的である「友好都市協定」に基づく相互理解と友好関係の増進、協力関係の構築、という所期の目的を達成できた。また、草の根交流の大切さをあらためて痛感しているところであり、目黒区議会としても、目黒区と東城区の交流を引き続き支援・推進していきたい。

目黒区議会議長 鈴木 まさし